

2024 年度「卒業生調査」の実施について

下記の目的で、卒業生調査を実施します。

2023 年度は、卒業後 1・5・10・20 年目の卒業生合わせて 1197 名を対象に実施、回答数は 60 件で回収率は 5.0%でした。

1. 目的

- ①卒業生が社会人基礎力の中で特に必要と思っている項目を把握する。
- ②対象を「1・5 年目」「2 年目」「10 年目」とする。「1・5 年目」には大学での教育等に関する質問を、「2 年目」にはいわゆる「2 年目の壁」といわれる離職について知るための質問をする。「10 年目」には経験を踏まえた意見等を聞く。
- ③教学マネジメントの基礎データとする。

※令和 5 年度 教育の質に係る客観的指標「⑩ 卒業生のキャリア（就職・進学等）の状況の把握と教育活動等の改善」（2023 年度の場合）に対応するものです。

2. 調査対象／ 1385 名（該当年度の住所判明者のみ抽出。総卒業生数は 1528 名） （1 年目 396 名、2 年目 385 名、5 年目 325 名、10 年目 279 名）

3. 依頼方法

- (1) ホームカミングデーの案内同封
- (2) 個人アドレス登録者には、回答 HP のアドレスを送付

4. 回答方法

- (1) 回答用紙の返送
- (2) Web による回答（大学 HP から）

5. スケジュール

時 期	内 容
2024年 4月24日(水)～ 6月26日(水)	就職支援協議会にて検討
7月 9日(火)	大学部長会
9月 2日(月)	公文書送付 昨年度結果送付
10月31日(木)	回答締め切り
11月27日(水)	就職支援協議会 結果報告 分析開始
2025年 1月29日(水)	就職支援協議会 分析報告
2月18日(火)	大学部長会 結果報告
2月19日(水)	教授会 結果報告

※検討結果によっては、9 月 10 日部長会後に公文書送付とします。

6. 昨年からの変更点

上記の通り、対象を「1・5・10・20 年目」から「1・2・5・10 年目」とした。

以上

2024 年度

聖隷クリストファー大学卒業生調査（全学部）

◆【卒業後 1 年目・5 年目】

1. <自分が今有していると思う能力について>

1) 社会人基礎力（「有している」・「やや有している」と回答した上位回答項目）

【卒業後 1 年目】

- ・相手の意見を丁寧に聞く力（24 人）
- ・社会のルールや人との約束を守る力（23 人）
- ・意見の違いや立場の違いを理解する力（22 人）

【卒業後 5 年目】

- ・相手の意見を丁寧に聞く力（9 人）
- ・自分と周囲の人々と物事との関係性を理解する力（9 人）
- ・社会のルールや人との約束を守る力（8 人）
- ・意見の違いや立場の違いを理解する力（8 人）

2) 本学が卒業時に専門職者として求める能力

（「有している」・「やや有している」と回答した上位回答項目）

【卒業後 1 年目】

- ・様々な価値観を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている（21 人）
- ・多職種と連携・協働することができる（19 人）
- ・建学の精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身に付けている（19 人）

【卒業後 5 年目】

- ・多職種と連携・協働することができる（7 人）
- ・専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している（7 人）
- ・社会のニーズを捉え専門職として自己研鑽することができる（7 人）

2. <社会人基礎力を身につけるための必要年数> 【卒業後 1 年目と 5 年目の合算】

- ・5 年を必要とすると回答した者：11 名
- ・3 年を必要とすると回答した者：12 名

3. <在学中の学びで有益であったと感じているもの> 【卒業後 1 年目と 5 年目の合算】

- ・実習（32 名） ・専門領域の授業（31 名） ・基礎・関連領域の授業（17 名）

＜卒業後 1 年目と 5 年目の全体から＞

卒業後 1 年目の回答者は 28 名、卒業後 5 年目の回答者数は 10 名という少数の返信結果であった。2025 年度より社会人基礎力チェックを在学中に本格運用することもあり、卒業後の社会人基礎力の評価が含まれる卒業後のアンケート調査の協力を促していきたい。

卒業後 1 年目の回答は、卒業して半年が経過した頃の返信となる。相手の意見を丁寧に聴く力、社会のルールや人との約束を守る力については、返信した 9 割の卒業生が有している・やや有していると回答している。傾聴力と規律性は、チームで働く力の分類に含まれており、新人職員として心掛けていることが分かる。

卒業後 5 年目の回答数が 10 名であることについては、どのように返信に協力を得るかは検討が必要である。「新しい価値を生み出す力」、「自分の意見をわかりやすく伝える力」、「他人に働きかけ巻き込む力」については、どちらともいえないという回答が多いことが 1 つの特徴であった。

社会人基礎力のすべてを身につけるために必要な年数については、例年と同じように 3 年または 5 年と回答する者が多かった。

役立った授業科目は、「実習」と回答する者が多かった。卒業後 5 年目の者の自由記述には、教科書にはない学びを得ることができたこと、実習でお世話になった指導者・卒業生を含めた先輩と、卒業後においても交流があるとされていた。実習が、社会に踏み出す良好な経験となっていることが分かる。

◆【卒業後 2 年目】

1. ＜自分が今有していると思う能力について＞

1) 社会人基礎力（「有している」・「やや有している」と回答した上位回答項目）

- ・社会のルールや人との約束を守る力（11 人）
- ・意見の違いや立場の違いを理解する力（11 人）
- ・相手の意見を丁寧に聞く力（10 人）

2) 本学が卒業時に専門職者として求める能力

（「有している」・「やや有している」と回答した上位回答項目）

- ・様々な価値観を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている（11 人）
- ・建学の精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身に付けている（9 人）
- ・多職種と連携・協働することができる（8 人）
- ・社会のニーズを捉え専門職として自己研鑽することができる（8 人）
- ・専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している（8 人）
- ・専門分野の知識・理論や技能を活用し、課題を解決する実践力を身につけている（8 人）

3) ＜社会人基礎力を身につけるための必要年数＞

- ・5 年：6 名

4) <在学中の学びで有益であったと感じているもの>

- ・実習（11人）
- ・専門領域の授業（11人）
- ・基礎・関連領域の授業（8人）

<卒業後2年目の全体から>

今年度初めて、卒業後2年目のアンケート調査を行った。新入職員が配属され2年目となった卒業生に対して、就職後1年目で大変だったこと、どのように困難を乗り越えたのかを伝えてほしいと考えたためである。回答者は12名であったが、自由記述には豊かな回答がされていた。

困難を乗り越えるために助けとなったことは、同級生や同期、先輩、家族という理解者があってこそ、2年目の自律に向かっていくことが読み取れた。

◆【卒業後10年目】

1. <新人（後輩）職員について>

1) 新人職員に求める能力について（「求める」・「やや求める」と回答した上位回答項目）

【卒業後10年目】

- ・社会のルールや人との約束を守る力（6人）
- ・物事に進んで取り組む力（6人）
- ・自分の意見を分かりやすく伝える力（6人）
- ・相手の意見を丁寧に聞く力（6人）

<卒業後10年目の全体から>

卒業後10年目の回答者は6名であった。新人職員に求める力については、上位4つについては全員が求める・やや求めるという回答であった。自由記述から、新人職員が、専門分野以外の一般社会の生活や仕事のこと等に目を向ける必要性や、社会人基礎力が年々落ちてきているという意見もあった。10年目として意識していることについては、指導とハラスメントの境界や、自分の意見をまとめて相手に伝える効果的な方法等、指導的立場として意識して取り組んでいることが記述されていた。